

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500752		
法人名	社会福祉法人 穩寿会		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	千葉県緑区高田町1084-2		
自己評価作成日	平成25年2月14日	評価結果市町村受理日	平成25年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成25年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の理念である「個々の役割を生きがいにつなげる支援」を目指し、ゴミだし・新聞取り・掃除(掃除機・モップがけ)・洗濯物(干し・取り込み・たたみ・仕分け)、食事(調理・味付け・盛り付け・配膳・洗物・食器拭き)、裁縫、畑の収穫等、個々の能力に合わせた支援をしています。 ・地域との繋がりを大切に、夏祭り、町民運動会、秋祭り、節分際等の地域行事に参加し、便宜を図ってもらう等地域の協力を得ることができています。 ・外出企画を多く設け、五感に働きかけるサービスを提供しています。 ・ご家族が気軽に面会に来られたり、行事と一緒に参加できるよう働きかけています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>着任して3年目の管理者はリーダーと協力して、安心できる体制作りを目指している。両ユニットを把握している職員を配置するシフトの組み方や、必要な利用者には30分ごとに安否確認をするなど、危機管理への意識が高い。その上でホームの理念を実現するべく、日々の支援に加え、職員研修、家族や地域、行政との関わりなどに心を配っている。思い思いの外出や、地域との関わりが多さは突出しており、それを実現し続けている職員の士気も高い。誠実な支援は利用者の笑顔と落ち着きに現れ、家族からの信頼も厚い。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個々の役割を生きがいに繋げる支援」に対して、入居者個々の能力に合わせた取り組み(清掃・食事作り・洗濯物たたみ等)を行っている。	地域密着型サービスの目的を十分理解してホームの理念「個々の役割を生きがいに繋げる支援」が作られている。現在はユニットごとに具体的な年間目標を話し合い、実践につなげている。振り返りの機会も作り、全職員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の買い物において、近くの商店へ食材を買いに行ったり、地域の運動会や秋祭り、節分際等に入居者と一緒に参加している。又、敷地内は近隣の方の散歩や通学路として利用されている。	日常の買い物・散歩等での交流はもちろん、町会役員・運営推進会議参加者・ボランティア等の関わりが継続している。近隣への行事参加に加え、近隣住民のホーム行事への参加も多い。かつて利用していた移動図書館の好意により、雑誌等の寄贈を受け、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会の行事や懇親会に参加し認知症の人の行動や対応方法を伝え、理解や支援の協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画や外部評価を含めた報告、地域の中での行事企画や開発計画等の情報交換、消防訓練の立会い等をお願いし意見交換を行っている。	パーベキュー大会の日に開催するなど、参加しやすく堅苦しくならない工夫をしている。議題も日頃の取り組みの報告にとどまらず、敷地内を散歩する地域住民のマナーの問題をホームから町会に持ちかけるなど、運営推進会議が機能している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム連絡会の世話人を担い、活動を通し行政との意見交換や質疑応答を行っている。	市のグループホーム協議会の役員を務めている。また、実情を折に触れ伝えており、相談に乗ってもらったり、アドバイスを受けたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者権利擁護、身体拘束廃止の研修を受講し、全ての職員が身体拘束をしないケアを正しく理解し実践できるよう取り組んでいる。	ホームでは身体拘束を行わないという方針である。研修の年間計画にも組み込まれ、言葉による拘束についてもユニット会議で指導している。現在、ホームの周囲の状況により施錠する時間はあるが、利用者の気持ちを汲み取り、行動そのものを制限しない支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を発見した時の報告義務が、全職員に課されていることを周知徹底し虐待防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる時は直ぐに対応できるよう関係機関との連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際に書面に基づき説明し、質問に応じ不安の軽減に努め理解を得られるように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ボランティアに入って下さっている近隣の方に運営推進会議のメンバーになってもらうなど入居者や家族の意見が外部者へ表せる機会を設けている。	家族の来訪も多く、電話も含めて連絡を密にしており、行事や介護計画計画の説明時などでも意見を聞くようにしている。必要に応じて外部への意見表出の機会も作っている。安全で衛生的な加湿器を居室に設置については家族からの意見、情報も考慮した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の前にリーダー会議を設け、職員からの意見や問題点を挙げやすいようにしている。	ふだんから意見を言いやすい関係作りに努め、毎月開催するユニット会議や必要時に行う面接以外でも意見を聞くようにしている。リビングを広く使える壁掛け式テレビの購入などが職員の提案により実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況の把握と評価をし給与や賞与に反映させている。又、各自のスキルアップを目指し向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的に行われる合同研修の参加やユニット会議における勉強会、又、外部研修にも参加できるように勤務調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し同業者との交流を図り、各種研修や話し合いに参加してサービスの改善や向上が出来るように取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接や入居直後には本人とのコミュニケーションを大切にし、良く話を聴き不安を取り除くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際に本人状況や困っている事を聞き、入居直前には電話連絡や面接等で家族とコミュニケーションをとり、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況と家族の希望を聞き、それに基づき必要に応じグループ内事業所の案内を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りの際の食材の刻みや味付け、畑の作物の植え付けなどのアドバイスをもらったり、実際にいやってもらったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が行事に参加しやすいようにお知らせを出したり、遠方から面会に来られる家族には希望で食事を提供し、一緒に食事を楽しみゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご本人の希望により自宅へ外出や外泊をさせて、馴染みの方との交流を図り気分転換をされるよう支援している。	親戚や、以前住んでいた施設の友人なども訪ねて来たり、行きつけの理容店に行くなど、いろいろな関わりを継続できるよう支援している。入所からの生活習慣の継続や、電話をかける楽しみなども利用者の気持ちを尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで座席を決める時に、会話が楽しめるように調整したり、職員が入居者同士の会話の中に一緒に入り込んで楽しめるように連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後の家族には近くに来られた時は気兼ねなく立ち寄り下さいと声掛けをしたり、入院先や施設等に出向き様子を伺ったりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全体で行動するよりも個々又は少人数で希望を聞きながら行動するよう努めている。	入居時に本人、家族から意向や希望の聞き取りを行うと共に、生活歴を理解するようにしている。入居後は日常生活のかかわりの中で、表情や言動から意向の把握に努めている。意思疎通が難しい場合でも、笑顔が多く見られる機会を増やすなど、一人ひとりに寄りそった支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接や入居時に生活歴を聞いている。ご家族の面会時にも本人を交え話を聞くなどしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の身体状態や精神状態により、その日の過ごし方を生活場面毎に考慮し対応している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見や家族の意見を踏まえ介護計画を作成している。ユニット会議や担当の評価をもとに見直しを行っている。	本人、家族から聞き取った情報や意向、居室担当者の意見を踏まえて、介護計画書を作成している。計画書はユニット会議において、職員全員で共有し、3ヶ月に一度見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、状態に変化があった時はユニットの申し送り簿にて職員間での情報共有を行い実践や介護計画に反映している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人グループ内の事業所及び医院との連携を取り、相談や催し物を通じて交流がある。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町民運動会や秋祭り、節分際などの行事に参加しやすいように地域で便宜を図っており、ボランティアや運営推進会議への参加等理解を得ることが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の理事長が認知症の専門医でもあり、適切な医療を受けられている。医療相談にも応じてもらっている。ご家族も同伴され相談されたり、専門医への紹介状をお願いしたりしている。	協力医療機関が定期的健康管理と緊急時に対応してくれる。眼科や耳鼻科など専門医への受診は、緊急の場合は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	武村内科医院の看護師や同法人の特養看護師、地域包括支援センターの看護師等に相談しアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際にはソーシャルワーカーに情報の提供をお願いしたり、担当医との連絡をお願いしたり、お見舞いに向いたりして関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時での十分な説明を行い、個々のケースに応じて主治医や家族との話し合いをしている。重度化した場合に法人の他施設に入所できるよう連携を図っている。	入居時にホームでできることを説明している。医療的な治療が必要になった場合や、全体の状態が低下してきた段階で、家族や主治医との話し合いの場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で行われる救命講習に参加し、救命技能を学んでいる。又、勉強会を開いて誤嚥時の対応法を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の消防訓練を定期的実施し、内1回は運営推進会議に盛り込んで意見の交換や、協力体制の依頼を行っている。	年3回消防訓練を行っている。シフトを調整して、全職員が参加できるように配慮している。水、食料品だけではなく、ポータブル発電機やカセットコンロなども整備し、地震などの災害にも備えている。また、運営推進会議や町内会の懇親会などを通して、近隣住民との協力体制を築くことにも、積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう声掛けに注意している。誤った声掛けや対応をした時は職員同士で注意し合える体制を作っている。	「自分がされて嫌なことはしない」ということを心がけている。相手の気持ちを尊重した言葉かけや、プライバシー確保については、研修やユニット会議時に職員全員で確認している。その場で職員同士で注意し合うなど、職員の意識は高い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問は選択肢を設けて自己決定が出来るように配慮し、取り組みに行かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のペースや排泄間隔等個々に合わせて対応している。レクリエーション等では何がやりたいか希望を聞き行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容についてはカラーを希望されたり、地域の馴染みの床屋さんを使用されたり、ご家族がされたりとその方に合った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付けを職員と一緒にいったり、庭にある野菜や果実を散歩がてら収穫して来たものを食卓に上げ、食を通して季節を楽しんだりしている。	利用者は、米をとぐ、野菜を切る、魚を煮るなど自分でできることを職員と一緒にやっている。献立を考えながら、職員と一緒に食材の買い物をしたり、ホームの菜園から収穫した季節の野菜を食べるなど、日常生活を通して、食事が楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分摂取量に気を配っている。時間を掛けないと水分補給が難しい入居者にはストローコップをいつも手元に置き時間を掛けて摂取できるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは個々の状態に合わせて支援している。又、必要に応じて定期的に歯科衛生士による口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを見逃さないようその方に一番良い支援を心掛けている。又、カンファレンスにおいて見直しを行い、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表があり、個々の排泄パターンにそって声かけ、トイレ誘導を行っている。利用者のサインを見逃さないようにして、適切にトイレ誘導を行うことや、段階を踏んでオムツやパットを使用しないようにするなど、排泄の自立に向けた支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに乳製品や繊維質の多い物を積極的に取り入れるよう工夫している。又、散歩の機会や水分摂取を促し、便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には毎日入浴できる体制をとっている。声掛けを工夫し、数を数えたり歌ったりしながらゆっくり湯船に浸かってもらっている。	入浴日や時間は決まっていないため、利用者は好きな時に入浴を楽しんでいる。ゆず湯や菖蒲湯など、季節感を味わえるようにもしている。入浴拒否の人に対しては、仲の良い利用者同士で入浴してもらうなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力に応じて昼寝が必要な方への支援や自由に居室で過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の下に処方される薬に対して説明書を確認して対応している。個々の状態に合わせて服薬の管理及び支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事、得意な事(掃除・料理・裁縫・洗濯物たたみ、畑仕事等)を楽しみながら出来るように支援している。ボランティアによる音楽・書道も楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の企画や食材の買出し等なるべく外出の機会を多く設けている。個人的な買い物は、職員がマンツーマンで対応している。敷地内の散歩を日課にしている入居者もいる。	初詣や花見などの行事の他、バス旅行にも出かけている。散歩や衣料品、化粧品などの買い物に行き、食事やお茶を飲んでくるなど、日常生活の中で、自然な形で外出する支援をしている。買い物に参加しない男性利用者の場合は、海辺の食堂まで出かけるなど、一人ひとりの希望にそった外出の機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行き、自分の財布からお金を出して好きな物を購入できる機会を提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ピンク電話が設置してあり家族に電話をしたり、携帯電話を所持し連絡をとっている入居者もいる。年賀状や暑中見舞いの葉書の外、手紙のやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも季節が感じられるよう、季節にあった飾りや草花、日常の写真を飾り居心地の良い空間作りを心掛けている。	天井と床に近い所に明かり取りの窓があり、自然な光が入るようになっている。食堂の隣には炬燵のある畳の部屋があり、炬燵でくつろぐこともできる。千葉市の図書館から寄贈された雑誌類が、車椅子の利用者も手が届く場所に置かれ、利用者は気軽に本を読むことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭の椅子や廊下のソファ、和室の掘り炬燵でテレビを見たり、職員と一緒に台所に立ったりと思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に家族と一緒にベッドや家具の配置を考えたり、本人の馴染みの物を持ってきてもらったりと居心地良く過ごせるように配慮している。	居室ごとにそれぞれ、テーブル、椅子、ソファ、タンスなどが置かれている。花柄のカーテンや旅行の写真、お気に入りの歌手のカレンダーなどが掛けられ、一人ひとりの好みを活かした、居心地のよさそうな居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーになっており、廊下やトイレ、浴室には手摺を設置している。		